

令和5年12月定例会行政報告

1. 一般行政報告

- 1) 要望等について
- 2) 寄贈金品について
- 3) クテクンベツ川への建設汚泥流出について
- 4) 作況状況について
- 5) 中標津空港利用促進について
- 6) 小樽商科大学との包括連携協定の締結について
- 7) 学校法人岩谷学園について
- 8) 令和5年度建設工事の発注状況について

令和5年12月11日

中 標 津 町

貴重な時間をお借り致しまして、9月定例会以後の行政報告を申し上げます。

1. 要望等について

第1点目は、要望等についてであります。

1) 最初に、北方領土隣接地域 振興対策 根室管内市町 連絡協議会としての要請活動であります。

10月12日に、自見内閣府特命担当大臣が北方領土視察のため隣接地域を訪問された際、根室市で開催されました関係団体との要望・懇談会におきまして、外交交渉を支える国民運動としての返還要求運動の推進、隣接地域における振興対策等の推進、北方四島との交流等事業の推進と拠点機能の整備、北方地域元居住者に対する援護支援などについて要請致しました。

なお、この要望・懇談会には議長の出席をいただいております。

12月1日には、「北方領土返還要求中央アピール行動」として、根室管内や全国の返還運動関係者、国会議員らと共に、東京都心部での街頭PR行進を行ったほか、松野内閣官房長官、自見内閣府特命担当大臣、辻外務副大臣を訪問し、国民世論の喚起高揚と、返還運動の推進を要請致しました。

なお、街頭PR行進、要請には、議長も出席したところであります。

2) 次に、管内4町における要請活動であります。

10月15日、本町を会場に開催されました「自由民主党北海道第七選挙区支部 令和5年度根室管内移動政調会」におきまして、支部長である鈴木 貴子 衆議院議員 及び 主催者の各道議会議員に対し、地方における人口流出対策としての賃上げ支援や医療サービスの水準向上への対策などについて要請致しました。

なお、この要請には、議長も出席したところであります。

3) 次に、北海道横断自動車道釧路・根室間建設促進期成会による要望活動であります。

11月9日、国土交通省、財務省及び地元選出国会議員に対し、「北海道横断自動車道根室線の整備促進に関する要望」として、釧路・根室地域の生活、産業を守り、生産性・競争力の向上を図るためには、安全で安定した物流と人の流れを確保することが不可欠であることから、尾幌糸魚沢道路の整備促進、「別保～尾幌」間の計画段階評価の調査促進を要望致しました。

2. 寄贈金品について

次に、2点目は、寄贈金品についてであります。

お手元に配付のとおり、9月定例会後に、

現金で	4件	4,897,500円
物品で	4件	
ふるさと納税で	2,021件	37,561,000円

の寄贈がございました。

寄贈金品を寄せられました方々に、改めて深く感謝を申し上げます。

3. クテクンベツ川への建設汚泥流出について

次に、3点目のクテクンベツ川への建設汚泥流出についてであります。

本年9月末より、クテクンベツ川上流の国有林内において、兵庫県に本社を置く、「株式会社 町おこしエネルギー」が、国及び北海道から許可を得て、地熱開発に向けた事前調査として掘削調査を行っていた際、現場から「掘削液」、いわゆる建設汚泥が、近くを流れるクテクンベツ川に流出したものであります。

経過でございますが、去る10月23日の夜間に、掘削調査地点から下流に位置する開陽浄水場において、取水となっておりますクテクンベツ川での汚濁発生の報告を受け、現地確認を実施したところ、既に汚泥の流出は止まっていたものの、掘削現場周辺の林地や林道側溝に、掘削液の残留を確認したことから、掘削業者に対して除去作業を指示し、現状復旧を行ったところです。

原因調査の結果、作業員が粘土質の土壌の対応に苦慮し、現場周辺の山林に廃棄したものが、林道側溝を流れ、クテクンベツ川に流れ込んだものと確認しました。

また、流出量につきましては、概ね1.5tが河川へ流出したものと推測されております。

なお、10月27日に「現場の掘削液」、「原水」、「浄水」の水質調

査を実施した結果、有毒性はない事が確認されており、国、北海道、関係する漁業協同組合、地元武佐地区連合会に対しまして、事態終息と安全性について問題は無い旨、情報共有を図っております。

その後、掘削調査は中止しており、先般、廃坑作業と撤収を行ったところであります。

今回の事態を踏まえまして、今後、同様の掘削調査等が実施される場合には、地元自治体として適切な措置が図られるよう「覚書き」等を取り交わすほか、調査の許可権者であります国・北海道に対しましても、厳しく指導・審査をして頂くよう申し入れをしたところであります。

また、今後はこのような事案が再び起こらないよう、関係者と連携しながら、町として慎重に対応して参りたいと考えております。

4. 作況状況について

次に、4点目は、作況状況についてであります。

はじめに、飼料作物の状況でございますが、牧草は、1番草で平年並みとなったものの、2番草は、高温、少雨の影響を受け平年を下回っております。

サイレージ用トウモロコシにつきましては、台風等による倒伏被害も少なく生育は順調に推移したことから、前年並みの結果となっております。

次に、畑作物ですが、今年は総じて高温となる日が多く、各種、作

物の育成は早かったものの、少雨の影響から作物は不良となり、出荷量も馬鈴しょを除き前年を下回る結果となりました。

また、販売価格でも軒並み前年を下回る状況となっております。

前段、申し上げたとおり、今年は30度以上の真夏日が昨年の4日に対して17日を記録しており、作物に大きな影響を与えたものと感じております。

今後、生産者及び関係者皆様の努力により、中標津産ブランドの確立が推進するものと期待するところでございます。

次に生乳生産についてであります。

今年の天候は牛に与えた影響も大きく、10月末現在の合計で、前年同期と比較して約4,160トン、率にして3.2%の減産となっております。

また、未だ脱脂粉乳の在庫が過剰となっていることから、昨年度に続き生産抑制が行われている状況です。

全国的に酪農家の離農が増加傾向にあり、北海道の生乳生産の占める割合が50%を超える中、今後も北海道酪農に依存せざるを得ない状況にある中で、生産抑制だけではなく、円安や国際情勢の緊迫化に伴う飼料価格の高止まり、子牛などの価格低迷など、先行きが見えず厳しい状況ですが、農業生産資材の安定的供給及びコロナ禍で落ち込んだ消費の早期回復を願うところです。

これから本格的な冬場を迎えますが、今後も適切な乳牛管理の下、計画数量達成を期待するところであります。

5. 中標津空港利用促進について

次に、5点目は、中標津空港利用促進についてであります。

北海道エアシステム（通称：HAC）の新規就航につきましては、就航日前の10月27日から28日に札幌地下歩行空間で、HAC就航とANA既存路線のPRイベントを実施しました。

更に就航日の10月29日には、中標津空港で就航記念イベントを行い、到着便及び出発便とも、ほぼ満席のお客様をお迎え・お見送りすることができました。

また、就航後もUHBでの番組企画放送やJR札幌駅ピラービジョンでの広告、YouTube広告など様々な展開を図っているところです。

そのような中で、11月利用状況としましては、搭乗率68.9%となっています。

丘珠－中標津線の再開は道内の地域間の結びつきを強化し、既存の新千歳線と合わせて1日5便となり、ビジネスや医療など社会生活にとって非常に重要な路線です。

この便数を維持するためには地元をはじめ、札幌圏の皆様と共に両路線を盛り上げる必要があることから、更なる利用促進に取り組んでまいります。

6. 小樽商科大学との包括連携協定の締結について

次に、6点目は、国立大学法人 北海道国立大学機構 小樽商科大学との包括連携協定の締結についてであります。

1 2月4日、小樽商科大学の穴沢 眞 理事長に本町にお越しいただき、それぞれの有する資源を有効に活用し、連携することで、持続可能な地域社会の発展、未来を担う人材育成及び学術の振興に寄与することを目的として、包括連携協定を締結しました。

この協定では、産業、人材育成、環境、防災、教育、健康、国際などの幅広い分野における連携、交流、相互活用を積極的に行い、中標津町の地域活性化や小樽商科大学の教育環境の充実など、お互いのより一層の飛躍・発展を図ってまいります。

7. 学校法人岩谷学園について

次に、7点目は、学校法人岩谷学園についてであります。

令和6年4月に開校を予定している「ひがし北海道IT専門学校」につきましては、11月22日に開催された「北海道私立学校審議会」において、設置認可が無事に承認されました。

本承認により、根室管内の住民の悲願であった初の高等教育機関の開校が決定し、これまで正式には行えなかった募集要項や出願書類を配布しながらの学校説明会や個別相談会に対応できることとなります。

開校初年度はこうした設置認可のスケジュール上、具体の学生募集が出遅れてしまうことから、定員充足は難しいものがありますが、新校舎に訪れた学生や保護者からは前向きな感触も得ており、引き続き関係機関の連携を密に広報活動に努めてまいります。

また、ひがし北海道日本語学校につきましては、現在2学年で39名が在籍し、レベル別に3クラスに別れ、授業が行われております。

8名の2年生が後輩の生活やアルバイトなどの面倒も見るなどして、学校運営が順調に推移し始めています。

町においては、留学生をはじめ、在住外国人の方々の定着支援と多文化共生に向けた環境整備を図るため、今年度は多くの国際交流イベントを実施しており、特に昨年に引き続き実施した「JICAfe^{ジャイカフェ} in 中標津」では、留学生が国別ブースにて、来場者に母国語を教えたりクイズを出すなどして、積極的にコミュニケーションをしていました。

入学生の募集につきましては、岩谷学園と町が連携を図りながら海外でのプロモーション及びリクルートに取り組んでおり、来年度の入学定員50名は既に確保され、間もなく入国に向けた書類申請が行われるところです。

8. 令和5年度建設工事の発注状況について

次に、8点目の令和5年度建設工事の発注状況についてであります
が、令和5年11月29日現在でご報告申し上げます。

令和5年度の発注計画は、件数162件、金額にしまして、
24億675万円ほどであります。

これに対し、発注状況ですが、件数で160件、率にしまして、
99%となっております。

金額では、24億599万円、率にしまして、
99%の発注となっております。

以上、8点についてご報告申し上げ、一般行政報告といたします。